

2020年3月期 決算説明会における主な質疑応答

2020年5月15日、東京

Q1：新型コロナウイルスの感染拡大の影響が、国内では上期末まで続くと仮定しているが保守的ではないか。病院の経営状況や当社事業への影響をどう見ているか。一方、海外では第3四半期末まで感染拡大に伴う特需があり、その後の反動減を想定しているが、他社は生体情報モニタの需要は長く続くとやっている。違いを教えてください。

A1：国内では、外来患者数の減少や、不急の手術・入院の延期による病院収益の悪化を懸念している。一部の医療機関では、電子カルテ導入や新規開業の延期が検討されている。当社事業では、カテーテルやペースメーカ等の需要が減少しているほか、ITシステムの更新を延期する病院も出始めている。医療現場を支えるため、防護服を着用する等の対策を行った上で営業・サービスを継続しているものの、不要不急の訪問は自粛しており、業績影響は出ると見ている。6月に緊急事態宣言が解除されたと仮定した場合でも自粛は一定期間続き、外来患者数や手術件数の回復は上期末までかかると見ている。海外については、新型コロナウイルスの感染拡大に応じて、中国、欧州、米国、中南米等の新興国で生体情報モニタや人工呼吸器の需要が増加している。この需要が長期間継続するという見方もあるようだが、当社では12月末までに感染拡大の影響が続くと仮定、その後は特需の反動減が発生する可能性があるとは見ている。

Q2：人工呼吸器 NKV-330、NKV-550 の 2021 年 3 月期業績への寄与はどう見ているのか。治療機器では、人工呼吸器以外が大幅減収となる見込みか。増産にあたり、部品調達に問題はないか、国からの補助はあるか。市場での評価や感染拡大が収束した後の需要の見通しについても教えてください。

A2：人工呼吸器の売上高は、2020年3月期35億円に対し、2021年3月期70億円を見込んでいる。一方で、除細動器やAED、ペースメーカ・ICD、アブレーションカテーテル等は需要が減少すると見ており、治療機器全体では、前期比3.7%の増収を見込んでいる。部品調達については、フィリピンやマレーシアのロックダウンにより一部の部品で供給が不安定となっているが、7月以降に回復すると見ている。増産のための設備投資について政府の補助金を申請しているが、業績への影響は軽微である。NKV-330はマスク型人工呼吸器のため、新型コロナウイルス感染症患者への使用は推奨されていないが、医師の判断により気管挿管で使用することも可能なため増産を決めた。NKV-550は、感染リスク低減のために病室外から操作できる機能を搭載しており、米国等において非常に高い評価を頂いている。いずれも2019年度に発売したばかりだが、今回の特需により市場認知度が高まり、当初描いていたよりも事業展開は加速すると見ている。各国で備蓄に向けた特需が終わった後も、集中治療体制の強化・整備は進むと想定しており、高機能かつ高品質で感染症対策に適した人工呼吸器の需要は続くと期待している。

Q3：生体情報モニタについて、海外だけでなく国内でも問い合わせが増加しているということだが、2021年3月期の業績見通しに織り込んでいるか。

A3：国内は海外に比べて医療提供体制は整備されており、海外ほどの特需は見られない。また、ITシステムの更新商談が延期されている状況や2020年3月期が好調だったことを踏まえ、2021年3月期の国内売上高は横ばいと見ている。需要が急増している海外では二桁増収を見込んでおり、生体情報モニタ全体では前期比5.4%の増収を見込んでいる。

Q4：米国での新型コロナウイルス感染拡大の影響を教えてください。中位機種ベッドサイドモニタのFDA再申請に向けた進捗状況はどうか。

A4：米国では、新型コロナウイルスの感染拡大による特需もあるが、当社のモニタリングソリューションを高く評価いただいている。中位機種ベッドサイドモニタについては、現在サイバーセキュリティ対策を進めており、2020年度上期再申請の予定に変更はない。

Q5：米国で提供を開始したサブスクリプションモデルについて、詳しく教えてください。今後、米国以外で展開する予定はあるか。

A5：サブスクリプションモデルは、当社が提携業者に医療機器を販売し、提携業者が医療機関に月額利用料を請求する形式である。保守サービス等を追加で提供する場合は、月額利用料が上がる。サブスクリプションモデルでの提供より、医療機関は初期導入コストを抑えて医療機器やサービスを利用することができる。新型コロナウイルスの感染拡大が収束した後は医療機関の経営悪化が懸念されることもあり、財務面で医療機関を支援できるサブスクリプションモデルは重要と考えている。但し、米国では、私立病院が多いことから、サブスクリプションモデルが受け入れられやすい一方で、欧州や新興国では官公立病院が主体のため、サブスクリプションモデルの導入には課題がある。日本においても同様に課題があり、導入までには時間を要すると考えている。

以上

<ご留意事項>

※本資料は、投資家の皆様へのご参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。